

万吉だより

MA GECHI NEWS

第32号 令和3年(2021)年3月

久保常晴教授の考古学

館長 時枝 務

「立正大学の考古学」を担った、立正大学出身の最初の学者は、やはり久保常晴教授(1907—1978)であろう。常晴は「つねはる」と読む。かつて、著名な考古学者である斎藤忠大正大学教授は、久保教授と知り合った頃、「じょうせい」と読み、僧籍にある方だろうと勝手に思っていたが、後にそうではないことをご本人から伺ったと思い出を語っておられた。

久保教授は、明治40年(1907)3月23日、北海道旭川市に生れた。その後、釧路市に移り、釧路市の小学校・中学校を卒業し、大正14年(1925)から昭和3年(1928)まで釧路市で小学校の代用教員を勤めた。その後、昭和3年4月に、立正大学予科に入学した。立正大学を選んだのは原田淑人講師に学ぶためであったが、原田はすでに退職してしまい不在であった。結局、石田茂作講師に師事し、仏教考古学を専攻することになったが、怪我の功名というべきことであった。昭和6年に史学科に入学し、昭和9年に卒業したが、卒業論文は「題目板碑を通じて見たる関東地方に於ける日蓮宗の状勢に就て」であった。選んだテーマがよかったのか、副手・助手を勤め、昭和12年から東京高等女学校教諭を歴任してから、昭和22年に立正大学専門部講師に任じられて以後、退職まで立正大学で教鞭をとった。

久保教授は北海道出身ということもあり、初期には北海道や樺太の考古資料を研究したが、徐々に仏教考古学に没頭していった。久保教授の仏教考古学は、板碑が発点であったこともあり、金石文と深い関係にあった。墓誌や仏具など銘文をもつものについて多く論じており、「雲版銘文集」や「平安・鎌倉時代鰐口銘文集」を編み、石製水盤の銘文を集成するなど、銘文を主軸に据えた研究が目立つ。また、古瓦・梵鐘・擬宝珠・板碑などの名称について、銘文を手がかりに論じたものがある。火葬墓にともなう骨壺についての論文を除けば、大部分がどこかで銘文を論じているとって過言でなく。久保教授の考古学は銘文研究を抜きに語るができない。

久保教授の銘文研究の最高峰が、『私年号の研究』(吉川弘文館、1967年)であり、断片的な事例を積み重ねて、大きな問題に迫る学風を垣間見ることができよう。一見仏教考古学と無縁そうに見える私年号の研究も、板碑をはじめとする金石文の研究成果であり、仏教考古学の基礎となる業績であったといえる。

祝古稀

立正大学博物館二代目館長
池上 悟先生へ贈ることば

池上悟先生は、昭和58年4月に文学部の非常勤講師として赴任されてから38年にわたって考古学の教員として、調査・研究、教育に携わってこられました。その調査・研究は、横穴墓を中心とした古墳時代、中近世の石造物についてと多岐にわたり、成果を着実に発表されています。

立正大学博物館には2代目館長として平成18年度～27年度まで、博物館担当副学長として平成28年度～30年度までの3年間、その運営に携わってこられました。先生は博物館を創設された初代館長・坂詰秀一先生の意思を引き継ぎ、収蔵品の核となっている撫石庵コレクションの梵鐘や吉田格コレクションの縄文土器等の調査・研究を深め、展示に活かされました。また、先生の研究テーマでもある古墳・横穴墓、石造物についても特別展や企画展でその成果を紹介しています。一方、地球環境科学部と連携しての企画展を開催するなど総合博物館としての責務も果たされています。



池上悟先生 最終講義にて

館長に着任当初、「前任館長の確立された基本を堅持しながら、更なる発展を期したい。」（「立正大学博物館の転換」『万吉だより』第5号 平成18年）と表明されたとおり、立正大学博物館を大きく育てられたことは間違いありません。

先生は、平成31年3月に副学長を退かれてからも、博物館の運営や展示について助言をしていただき、大変心強く、感謝しております。このたび古稀を迎えられ、お祝いの気持ちとともに、3月で退職を迎えられ、寂しさと心細さを感じています。

今後は、研究テーマである近世墓標についての調査を楽しみにされているとのことですが、改めて立正大学博物館にも目を向け、ご助力いただけることを願っています。（学芸員 足立佳代）

土器焼き実習

今年度も熊谷キャンパスゴルフ練習場東側の空地で、考古学実習5・6（品川・集中）の土器焼き実習を行いました。講師は竹花宏之先生（史学科非常勤講師）で、実習生は3年生と4年生13名のうち、9名が参加しました。

例年は、11月上旬に実施していますが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、対面による実習が遅れたため、12月25日（金）、26日（土）の2日間となりました。本学非常勤講師である中山晋先生、井上尚明先生も見学に来てくださいました。



令和2年度 考古学実習生

25日は風が強く実施が危ぶまれましたが、26日は風も止み、穏やかな日となり、無事火を入れることができました。また、土が冷えているため、燃焼温度が上がるか心配していましたが、土器が割れることもなく、うまく焼くことができました。

コロナ禍の博物館

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、立正大学博物館は休館となりました。企画展は中止となり、地域の来館者も迎えられない状態でした。

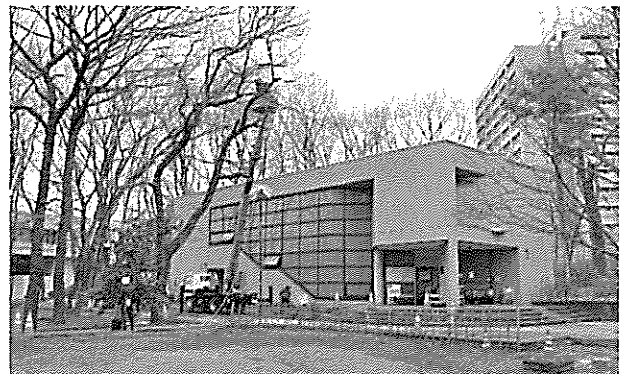
特に4月、5月は職員の勤務制限もあり、人の出入りがほとんどない状態でした。そのため、館内の空気が滞留し、気温の変化の大きい時期でもあり、展示ケース内にもカビが発生してしまいました。特に2階展示室は気温が上がりやすいことから、結露が見られ、以前からカビの発生がみられましたが、そ



投葉ホースの設置状況

の都度清掃・消毒し対応していました。6月から業務の再開に伴い、展示ケース内の清掃、消毒を実施し、除湿機能付空気清浄機も導入しました。ただし、カビの被害が館長室・資料室の書籍、備品などにも広範囲にみられること、徹底した措置をとらないと再びカビが発生することなどから、施設管理を担当する熊谷管財課に相談しました。その結果、熊谷管財課の事業により、エアコンの清掃・防カビコーティング、館内燻蒸、建物の上に覆いかぶさるように茂っていた立木の伐採が実施されました。

以上のように、新型コロナウイルス感染症の影響で休館となった博物館ですが、開館中はなかなかできない館内整備などを重点的に実施することができました。



周辺立木の伐採状況

資料活用

館外利用

次の機関に所蔵資料の写真が掲載されます。

①大田区立郷土博物館

常設展示のパネル及び情報検索システム「大田歴史探検ガイド」に掲載するため

貸出資料：多摩川台古墳群写真3点、下沼部貝塚写真（吉田コレクション）1点

掲載日：2021年4月1日から

②第一学習社

文部科学省検定高等学校地理歴史科「日本史探求」教科書紙面への掲載および教師用資料、デジタル教科書への利用するため

貸出資料：称名寺Ⅰ式深鉢（吉田コレクション）写真1点

掲載日：2023年2月刊行（予定）

③横浜市ふるさと財団埋蔵文化財センター

広報紙『埋文よこはま』43号掲載及び横浜の遺跡展「野島貝塚」パネル掲載のため

貸出資料：野島貝塚出土釣針・土器片の写真2点

掲載日：2021年3月5日～4月27日展示

2021年3月刊行（予定）

④袖ヶ浦市教育委員会

『令和元年度山野貝塚講演会周辺地域の遺跡から山野貝塚の特徴を探る記録集』に掲載するため

貸出資料：称名寺貝塚写真（吉田コレクション）

3点ほか写真7点掲載許可

掲載日：2021年3月刊行（予定）

館内利用

12月に個人による2件の資料調査がありました。

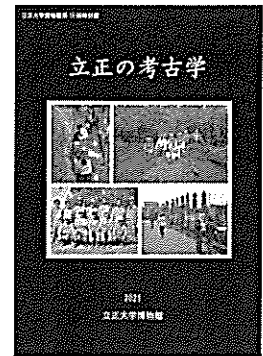
- ①花輪台貝塚土製品（吉田コレクション）
- ②新沼窯跡出土文字瓦

資料整理

埼玉県埋蔵文化財調査事業団に勤務されている金子直行氏、上野真由美氏のご協力により、吉田コレクションの城ノ台貝塚、子母口貝塚出土資料を整理しています。成果は今年度中に報告予定です。

刊行物

○令和3年3月15日に第15回特別展「立正の考古学」を刊行しました。
B5判 28頁 カラー



○「立正の考古学」は、新年度開館時に展示をご覧いただけます。

○文学部瀧口美佳先生のご協力により、簡易な英文リーフレットを作成しました。

利用案内

所在地：〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

立正大学熊谷キャンパス内

TEL 048 - 536 - 6150

FAX 048 - 536 - 6170

開館日：月・水・木・金（大学休業中を除く）

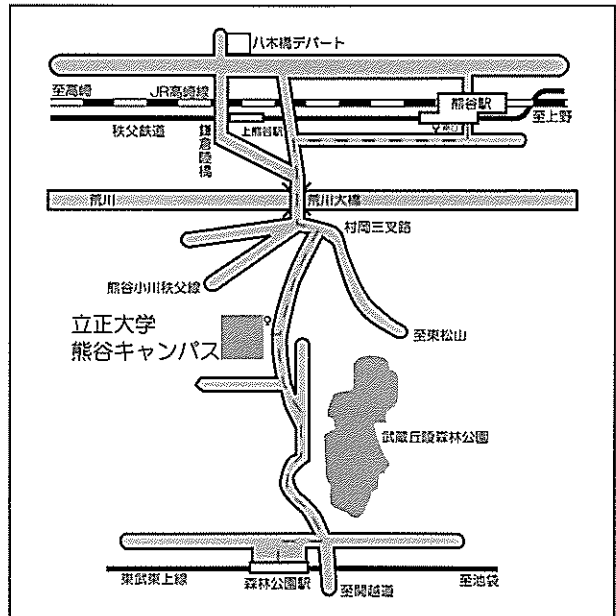
開館時間：10:00～16:00

※詳細につきましては、博物館ホームページをご覧ください。

交通機関：

- ① JR 高崎線、北陸新幹線、秩父鉄道「熊谷駅」下車
南口より立正大学行バス（国際十王交通）で約10分。
- ② 東武東上線「森林公園駅」下車。北口より立正大学行バス（国際十王交通）で約12分。

お問い合わせ：博物館または熊谷総務部総務課
(048-536-6010) にご連絡下さい。



あとがき

今年は新型コロナウイルス感染症の蔓延により、休館となりましたが、例年どおり博物館実習や土器焼き実習で学生のみなさんと一緒に学ぶことができました。また、城ノ台貝塚出土品整理、館内燻蒸など、館内整備ができました。

来年度は学生のみなさんや地域の方々と博物館でお会いするのを楽しみにしています。

(学芸員 A)

立正大学博物館館報 万吉だより 第32号

令和3(2021)年3月15日発行

編集・発行 立正大学博物館

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

TEL 048-536-6150

FAX 048-536-6170

E-mail : museum@ris.ac.jp

URL : <https://www.ris.ac.jp/museum/>

題字揮毫 田淵 観 斎 (立正大学名誉教授)

(印刷：アサヒコミュニケーションズ)